

早川 操 教授 著作目録

Publication List of Professor HAYAKAWA Misao

著書 (Books)・共著分担執筆 (Chapters in Books)

1. 「道徳教育の課題」田浦武雄編『教育の原理』名古屋大学出版会, 1983年, 202-214頁.
2. 「進歩主義」田浦武雄編『新版 教育哲学原理』川島書店, 1984年, 19-45頁.
3. John Dewey's Theory of Social Inquiry: The Significance of Social Inquiry for a Philosophy of Education. Ph.D. Dissertation, University Microfilms International, 1984, pp. 1-265.
4. 「デューイ社会的探究理論の意義と展望」堀内守編『教育哲学の諸問題』名古屋大学出版会, 1986年, 150-178頁.
5. 「文化と教育」田浦武雄編『現代教育の動向』福村出版, 1987年, 51-76頁.
6. 「永遠主義」「マルクス主義」田浦武雄編『現代教育の原理』名古屋大学出版会, 1990年, 57-62, 65-69頁.
7. 「アメリカ人の教育観」喜多村和之編『アメリカの教育』弘文堂, 1992年, 40-69頁.
8. 「教師・生徒間における反省的教授—デューイの相互反省的思考の展開—」杉浦美朗編『教育方法の諸相』日本教育研究センター, 1993年, 43-101頁.
9. 「対話と協働—批判的反省に関するデューイとフレイレの見解をめぐって—」杉浦宏編『デューイ研究の現在』日本教育研究センター, 1993年, 207-226頁.
10. 『デューイの探究教育哲学—相互成長をめざす人間形成論再考—』名古屋大学出版会, 1994年, 1-287頁.
11. 「変革的リテラシーの展望」田浦武雄編『アメリカ教育の文化的構造』名古屋大学出版会, 1994年, 146-162頁.
12. 「社会変動と教育的かわり—情報化・個性化・国際化—」梶田正巳編『成長への人間的かわり』有斐閣選書, 1995年, 34-48頁.
13. 「教育的アナキズムの展開—解放とエンパワーメントをめざす批判的教授学—」杉浦宏編『アメリカ教育哲学の動向』晃洋書房, 1995年, 301-317頁.
14. 「探究の精神と人間形成」市村尚久・天野正治・増淵幸男編『教育関係の再構築—現代教育への構想力を求めて—』東信堂, 1996年, 30-50頁.
15. 「学校と教師—探究共同体における協働探究者の課題—」『日本の戦後教育とデューイ』世界思想社, 1998年, 168-180頁.
16. 「コミュニティと学校改革—アメリカ—」『世界の教育改革』岩波書店, 1998年, 23-45頁.
17. 「ポストモダンの人間形成論再考—アイデンティティ形成のパラダイム展開—」『現代教育学の地平—ポストモダニズムを越えて—』南窓社, 2001年3月, 191-215頁.
18. 「『公共的想像力』の育成からみた現代教育理論のパラダイム転換—教育の多様化は新たな人間形成の視座を創れるか—」『教育の可能性を読む』情況出版, 2001年3月, 140-161頁.
19. 「経験の文化形成力—状況構築における反省と制作の働きを考える—」市村尚久他編著『経験の意味世界をひらく—教育にとって経験とは何か—』東信堂, 2003年3月, 167-189頁.
20. 「デューイの政治論」杉浦宏編著『現代デューイ思想の再評価』世界思想社, 2003年6月, 157-170頁.
21. 「人間像のゆらぎと教育」今津孝次郎・馬越徹・早川操編著『新しい教育の原理—変動する時代の人間・社会・文化—』名古屋大学出版会, 2005年3月, 10-26頁.
22. 「アメリカの大学入学政策とアフーマティブ・アクション」田村哲樹・金井篤子編著『ポジティブ・アクションの可能性』ナカニシヤ出版, 2007年3月, 213-233頁.
23. 「日本大学的質量保障と国際化—以名古屋大学為例—」大学経営国際論壇編委会編『大学品牌と経営』華文出版社, 2008年5月, 18-37頁. (沈晶晶訳)
24. 「デューイの日本文化探究論再考—実験主義的リベラリズムから見た日本民主主義と文化の課題—」『日本のデューイ研究と21世紀の課題』世界思想社, 2010年10月, 43-56頁.
25. 「流動化する社会と教育 転移力・汎用力を身につける」早川操・伊藤彰浩(編著)『教育と学びの原理 変動する社会と向き合うために』名古屋大学出版会, 2015年7月, 10-23頁.
26. 「20世紀教育理論の変遷と課題—理想的実践主義から見た教育理論—」加賀裕郎他編『プラグマティズムを学ぶ人のために』世界思想社, 2017年4月, 203-217頁.
27. 「わが国におけるデューイ探究学習の受容と変容—20世紀の問題解決学習から21世紀の探究学習へ—」日本デューイ学会編『民主主義と教育の再創造』勁草書房, 2020年12月, 13-22頁, 「あとがき—21世紀の創造的民主主義と教育—」319-322頁.

学術論文 (Articles)

1. 「言語教育の総合的研究 I—英語教育を中心として—」『名古屋大学教育学部紀要』第22巻, 1976年, 1-15頁. (共著)
2. 「言語教育の総合的研究 II—英語教育を中心として—」『名古屋大学教育学部紀要』第23巻, 1977年, 1-24頁. (共著)
3. 「進歩主義教育運動の基本的理念—1890年代から1950年

- 代まで一『名古屋大学教育学部紀要』第23巻, 1977年, 131-140頁.
4. 「教育的認識の認知心理学的研究—J. S. ブルーナーを中心として—」『名古屋大学教育学部紀要』第24巻, 1978年, 39-50頁.
 5. 「デューイにおける実験的探究の展開—シカゴ時代を中心にして—」『日本デューイ学会紀要』第19号, 1978年, 65-71頁.
 6. 「学習社会とデューイの探究共同体」『名古屋大学教育学部紀要』第28巻, 1981年, 29-38頁.
 7. 「探究共同体の創造と学校教育(I)—公衆の問題を中心にして—」『市邨学園短大人文学論集』第32号, 1982年, 141-164頁.
 8. 「母と子の信頼関係と幼児教育—生後一年間の母子関係の示唆するもの—」『市邨学園短大幼児教育研究会紀要』第2号, 1983年, 1-22頁.
 9. 「探究共同体の創造と学校教育(II)—「公衆」を育てる教育的な共同体を求めて—」『市邨学園短大人文学論集』第33号, 1983年, 21-42頁.
 10. 「探究共同体の創造と学校教育(III)—学校での対話的空間の創造を中心にして—」『市邨学園短大人文学論集』第36号, 1984年, 73-95頁.
 11. 「子どもをとりまく人間関係と自律性の形成—日本的な子どもの育て方の根底にあるもの—」『市邨学園短大幼児教育研究会紀要』第3号, 1985年, 1-25頁.
 12. 「アメリカの現象学研究におけるデューイの評価—デューイとシュッツとの比較検討の妥当性をめぐって—」『日本デューイ学会紀要』第26号, 1985年, 50-56頁.
 13. 「探究共同体の創造と学校教育(IV)—教室での対話的空間の機能と課題—」『市邨学園短大人文学論集』第37号, 1985年, 117-139頁.
 14. 「デューイ『社会的探究理論』が生涯教育に示唆するもの」『教育哲学研究』第52号, 1985年, 1-16頁. (査読有)
 15. 「ジョン・デューイの『文化的自然主義』の考察—社会的想像力の自然主義的基盤について—」『市邨学園短大人文学論集』特集号, 1986年, 111-138頁.
 16. 「デューイの『習慣』概念の現象学的意義—V. ケステンバウムの研究を基盤にして—」『日本デューイ学会紀要』第28号, 1987年, 1-7頁.
 17. 「1980年代のアメリカにおける『教員の資質向上』に関する改革案の研究」『名古屋大学教育学部紀要』第34巻, 1988年, 13-34頁.
 18. 「意味共有の基礎としての『習慣』の再検討—デューイにおける『共感』と『コミュニケーション』—」『日本デューイ学会紀要』第29号, 1988年, 9-16頁.
 19. 「アメリカにおけるデューイ哲学再評価の動向(I)—『自然主義的形而上学』の再検討を中心にして—」『名古屋大学教育学部紀要』第35巻, 1989年, 13-32頁.
 20. 「デューイの『経験』の宗教学」『日本デューイ学会紀要』第30号, 1989年, 152-159頁.
 21. 「アメリカにおけるデューイ哲学再評価の動向(II)—『脈絡主義』と『経験の美的資質』を中心にして—」『名古屋大学教育学部紀要』第36巻, 1990年, 91-108頁.
 22. “Research Organization and Training of Advanced Students in Japan”『名古屋大学教育学部紀要』第36巻, 1990年, 467-505頁. (馬越徹との共著)
 23. 「デューイの『一対一の人間関係』概念に関する考察—『社会的探究』と『コミュニケーション』との融合をめぐって—」『日本デューイ学会紀要』第31号, 1990年, 34-41頁.
 24. “Evaluation of Japanese Graduate Education by Asian Students,” Proceedings of International Forum for Studies on the Pacific Rim Region, University of Nagoya Press, 1990, pp. 191-205.
 25. 「アメリカにおけるデューイ哲学再評価の動向(III)—『探究』理論の『存在論的・論理的』考察—」『名古屋大学教育学部紀要』第37巻, 1991年, 9-30頁.
 26. 「『実験学校』の歴史と教訓—コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ附属中等学校の果たした役割—」『中等教育研究』第3号, 1992年, 99-118頁.
 27. 「アメリカにおけるデューイ哲学再評価の動向(IV)—『探究』理論の『言語行為的・間主観的』考察—」『名古屋大学教育学部紀要』第38巻, 1992年, 47-65頁.
 28. 「『探究なきプラグマティズム』再考—R. ローティは真のデューイアンか?—」『日本デューイ学会紀要』第33巻, 1992年, 33-41頁.
 29. 「いま学校に求められているもの—現代アメリカ学校教育論が示唆するもの—」『日本デューイ学会紀要』第35巻, 1994年, 117-123頁.
 30. 「ラディカル教育学者による進歩主義教育批判の再検討—実践的知性をめぐるリヴィジョンリストたちの批判を中心に—」『日本デューイ学会紀要』第36号, 1995年, 57-64頁.
 31. “Implications of Social and Educational Change for the Role of Teachers in Japan,”『名古屋大学教育学部紀要』第42巻, 1996年, 35-50頁.
 32. 「ラディカル教育学者による進歩主義教育批判の再検討—デューイの『学問の自由』めぐるリヴィジョンリストらの批判を中心に—」『日本デューイ学会紀要』第37号, 1996年, 63-69頁.
 33. 「パラダイム・シフトのなかのデューイ—日本とアメリカにおけるデューイ教育思想研究の比較—」『近代教育フォーラム』No. 5, 1996年, 107-115頁.
 34. 「きずな・ケア・自尊心を育む人間関係空間の意義再考

- デューイのコミュニケーション論が示唆するもの—
『日本デューイ学会紀要』第38号, 1997年, 176-182頁.
35. 「批判的教授学のアイデンティティ形成観についての一考察」『日本デューイ学会紀要』第39号, 1998年, 110-117頁.
 36. 「H. ジルールの批判的教授学におけるポストモダン・アイデンティティの形成に関する考察—ジェンダーとエスニシティとの関連から見たアイデンティティ形成を中心に—」『名古屋大学教育学部紀要（教育学）』第45巻第1号, 249-277頁. (249-257頁担当), 1998年9月（共著）
 37. 「『ケアリングマインド』育成のための教育理論とその課題—N. ノディングズによるケアの連鎖構造と同心円構造の考察を中心に—」『名古屋大学教育学部紀要（教育学）』第45巻第2号, 1999年3月, 85-103頁.
 38. 「デューイ社会思想の今日的意義—ポイエシスとしての社会的探究再考—」『日本デューイ学会紀要』第40号, 1999年6月, 155-162頁.
 39. 「ポストモダン時代における人間形成理論の展望と現代教育改革の課題」『名古屋大学教育学部紀要』第46巻第2号, 2000年3月, 19-46頁.
 40. 「越境教授学の挑戦—H. ジルールによる公共的知識人育成の教育理論—」『情況』2000年4月号, 35-51頁.
 41. 「社会的探究による『公共的関心』の形成に関する考察—デューイ＝リップマン論争を中心に—」『日本デューイ学会紀要』第41号, 2000年6月, 89-95頁.
 42. “A Study on Future Possibilities of Teacher Education in Japan,” 『名古屋大学教育学部紀要（教育科学）』第47巻第1号, 2000年9月, 35-50頁.
 43. 「社会的知性の役割をめぐるデューイ—ニーバー論争についての考察—」『日本デューイ学会紀要』第42号, 2001年6月, 58-64頁.
 44. 「第一次世界大戦前後におけるデューイの知性的平和主義思想の転回—デューイ—ポーン論争の意義についての検討を中心に—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』第48巻第2号, 2002年3月, 51-68頁.
 45. 「戦争とリベラル知識人をめぐるデューイ—ポーン論争の意義再考—」『日本デューイ学会紀要』第43号, 2002年6月, 75-81頁.
 46. 「経験における反省と制作の往還作用再考—越境的想像力をはぐくむ経験の意義を考える—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第49巻第2号, 2003年3月, 47-66頁.
 47. 「成人期における自己形成の可能性—『進化する自己』から成人の成長を考える—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第50巻第1号, 2003年9月, 15-43頁.
 48. 「デューイの『織り込まれた知性』から見た文化の地平」『日本デューイ学会紀要』第45号, 2004年10月, 97-105頁. (査読有)
 49. 「デューイの知性的平和主義をめぐる論争とその現代的意義」『日本デューイ学会紀要』第46号, 2005年10月, 166-175頁. (査読有)
 50. 「コミュニケーション的探究が拓くデューイ公共哲学の地平—公共的知性と文化的多様性が築く友愛的経験の世界—」『日本デューイ学会紀要』第47号, 2006年10月, 181-191頁. (査読有)
 51. 「日・豪における学士課程教育に関する学生評価の比較—名古屋大学とシドニー大学における SCEQ（学士課程教育アンケート）調査分析—」『名古屋高等教育研究』第7号, 2007年3月, 81-104頁. (岩城奈巳と共著) (査読有)
 52. 「通 国際合作ネットワーク 建立世界一流大学」『復旦教育』Vol.5, No.1, 2007年, 16-18, 29頁. (山本進一, 沈晶晶と共著, 中国語訳は徐曉純) (査読有)
 53. 「デューイが見た異文化における人間と教育—1920年代初期デューイの中国観—」『日本デューイ学会紀要』第48号, 2007年10月, 75-85頁. (査読有)
 54. 「ジョン・デューイの日本観—実験主義的リベラリズムから見た1920年代初期の日本における民主主義の課題—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第54号, 2008年3月, 45-57頁.
 55. 「変動する社会における教育と人間像—ケアする人間を育てる教育—」『教育と医学』No. 665, 2008年11月, 4-12頁.
 56. “Influence of Market Principles upon Japanese University Reform: The Changing Climate of Research Activities and Graduate Education,” 『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』, 第55巻第1号, 2008年9月, pp. 1-11.
 57. 「日本大学の質量保障と国際化—以名古屋大学為例—」大学経営国際論壇編委會編『大学品牌与経営』華文出版社, 2008年5月, 18-37頁. (沈晶晶訳)
 58. 「市場原理対日本大学改革の影響—以日本国立大学為例—」『高校教育管理』Vol. 2, No.6, 2008年11月, 5-10頁. (中国語訳：沈晶晶) (査読有)
 59. 「デューイによる日本のデモクラシー批判—1920年代の日中関係から見た日本の政治的文化的課題—」『日本デューイ学会紀要』第50号, 2009年9月, 75-84頁. (査読有)
 60. 「デューイの国際教育文化論に関する考察—デューイが見た20世紀初期ソビエトの革命的世界における近代化と教育—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』第56巻第2号, 2010年3月, 67-78頁.

61. 「20世紀初期メキシコ・トルコ・中国における学校教育の役割—デューイが見た革命的世界の学校・教育・文化—」『名古屋大学中等教育研究センター紀要』第10号, 2010年3月, 1-17頁.
62. 「千葉命吉によるデューイ思想の受容と変容—デューイ教育理論の受容から見た大正自由教育思想の側面—」『日本デューイ学会紀要』第51号, 2010年10月, 23-33頁. (査読有)
63. 「大正自由教育思想におけるデューイ教育理論の受容—千葉命吉の独創教育論に見るデューイ教育理論の影響についての考察—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第57巻第1号, 2010年10月, 53-65頁.
64. 「“第三経済大国” 時期日本高等教育在构建全球大学中的作用」『高等教育研究』Vol. 31, No. 12, 2010年第12期, 24-32, 48頁. (中国語訳: 胡建華・将惠玲) (査読有)
65. 「デューイによるバートランド・ラッセル判決批判—学問の自由における知性と探究の意義と限界—」『日本デューイ学会紀要』第52号, 2011年10月, 59-69頁. (査読有)
66. “The Search for Japanese Higher Education’s Role in the Construction of Global Universities in an Age of ‘Japan as No.3,’” 『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第58巻第1号, 2011年10月, 13-25頁.
67. 「デューイの社会的探究における協働的知性の役割と展開」『日本デューイ学会紀要』第53号, 2012年10月, 199-209頁. (査読有)
68. 「デューイの心理学にみる実験的知性観の萌芽」『日本デューイ学会紀要』第54号, 2013年10月, 53-63頁. (査読有)
69. “The Search for a New Role of Liberal Education in an Age of Globalization: The Challenge of Transferable Skills to Liberal Knowledge at Japanese Colleges and Universities,” *Asia Pacific Education Review*, Vol. 15, No. 1, March, 2014, pp. 89-97. (査読有) DOI 10.1007/s12564-013-9302-970.
70. 「「深い学習」とは—大学教育は「転移可能性」を教えられるのか—」『教育哲学研究』第109号, 2014年6月, 93-98頁.
71. 「デューイ「実験室学校」における反省的美的経験による教育—オキュペーション・カリキュラムを通じての想像力の育成—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第60巻第2号, 2014年3月, 1-18頁.
72. 「デューイの美的経験論における実験主義の特徴—「一つの経験」と「質的思考」の意義再考—」『日本デューイ学会紀要』第55号, 2014年10月, 65-74頁. (査読有)
73. 「デューイが描いた人間の課題と教育—デューイ研究の歩みをふりかえる—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第61巻第2号, 2015年3月, 1-24頁.
74. 「デューイの『思考の方法』に見る実験主義的想像力の展開」『日本デューイ学会紀要』第56号, 2015年10月, 41-50頁. (査読有)
75. 「大学教育における汎用的知識技能の育成とその課題」『教育哲学研究』第113号, 2016年5月, 37-43頁.
76. “The Education of Transferable Skills at Japanese Universities,” *English E-Journal of the Philosophy of Education*, Vol. 1, 2016, pp. 33-40.
77. 「深い学習による汎用力育成のためのカリキュラム開発の課題—次期学習指導要領に見る「主体的・対話的で深い学び」の意義—」『椋山女学園大学教育学部紀要』Vol. 10, 2017年3月, 131-147頁.
78. 「デューイの実験的探究と二一世紀の教育」『日本デューイ学会紀要』第58号, 2017年10月, 139-147頁. (査読有)
79. 「デューイの「反省的道德」論の現代的意義」『日本デューイ学会紀要』第59号, 2018年10月, 71-80頁. (査読有)
80. 「コールバーグによるデューイ道徳理論の評価についての考察」『日本デューイ学会紀要』第60号, 2019年10月, 41-50頁. (査読有)